農 推 第 3256 号
平成30年2月16日

関 係 各 位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス （2月）

大阪府内の2月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
施設内外の温度差が大きく、農作業中に体調を崩しやすいので御注意ください。

●各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
●各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 http://www.jppn.ne.jp/osaka/

◎ 「防除指針」 http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html

▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

目次

1　果樹（果樹類全般、ぶどう、バラ科果樹（もも、すもも、うめ等））…… P. 1～2

2　野菜（トマト・ミニトマト、なす、たまねぎ）…… P. 3～4

次回の情報は、3月15日頃にお知らせします。

果樹

果樹類全般

間伐・整枝・せん定

防除のポイント

◆密植園では、日照・通風条件が悪く、病害虫の発生が増加するため、適切な樹間距離になるように間伐等を実施する。
◆整枝・せん定の切り口に**トップジンMペースト**を塗布する。

ぶどう（加温栽培）

灰色かび病

特徴

◆多湿条件で発生が多くなる。
◆胞子（分生胞子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

◆適切に 換気を行い、湿度を下げるようにする。
◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
◆第１回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
◆開花直前または落花直後に**ゲッター水和剤（45日前まで）**、**スイッチ顆粒水和剤（30日前まで）**、**フルーツセイバー（7日前まで）**等を散布する。

ハスモンヨトウ

幼虫

特徴

◆早期加温栽培では3～4月に被害を受けやすい。

防除のポイント

◆成虫発生初期から終期まで、**フェロモンディスペンサー（ヨトウコンーH）**を設置する。
◆発生を確認した場合は、**エクシレルSE（前日まで）**、**フェニックスフロアブル（14日前まで）**、**コテツフロアブル（60日前まで）**等を散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

成虫

幼虫

特徴

◆成虫3～4cm。全体は光沢ある黒色で、前胸は明赤色。
◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。
◆成虫は6～8月に出現、幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
◆うどん状のフラス(木くず・糞・樹脂の混合物)がある穴には幼虫がいる可能性が高い。
◆若齢幼虫はうどん状よりも細いフラスを出すことがある。

防除のポイント

◆被害の大きい樹や枝は、倒木・落枝などの危険があることや、内部の幼虫を処分するために、早期に伐採し、焼却あるいは破砕（チップ化）することが望ましい。
◆焼却や破砕（チップ化）が難しいときはネットやビニルシート等で覆い、内部から成虫が羽化することを防ぐ。
また、伐採後の切り株についても、同様の理由でネットやビニルシート等で覆う。

被害枝

うどん状フラス

冬期は幼虫の活動はないが、被害拡大や倒木・落枝を防ぐため
被害の多かった樹は伐採等の対策が必要

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

野菜

2月前半の病害虫発生状況

品目＼程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト（施設栽培）			すすかび病		
なす				アザミウマ類	
たまねぎ			べと病		
			白色疫病		

トマト・ミニトマト（施設栽培）

すすかび病

被害葉※

特徴

◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
◆近年増加傾向にある。葉かび病よりかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

◆発生を認めたら、**トリフミン水和剤**（前日まで）、**ファンベル顆粒水和剤**（トマトのみ、前日まで）などを散布する。

なす

アザミウマ類

ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

◆苗からの持ち込みによる発生が多く見られている。

防除のポイント

◆発生が見られたら、**ディアナSC**（前日まで）、**プレオフロアブル**（ミナミキイロアザミウマ）（前日まで）、**モベントフロアブル**（前日まで）を散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

たまねぎ

べと病

越年罹病株

特徴

◆苗床・定植後に、作物残さなどから感染する。翌年1～2月に越年罹病株として病徴を現し、次作の発生源になる。

防除のポイント

◆予防散布として、
ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤（3日前まで）、**ランマンフロアブル**（7日前まで）を散布する。
◆発生を認めたら、
ザンプロDMフロアブル（7日前まで）か
プロポーズ顆粒水和剤（7日前まで）を散布する。
◆発病した株は感染源となるので、抜取る。抜き取った株は肥料袋などに集め、石灰窒素を加えて密封するなど、ほ場外へ持ち出した上で、適切に処分する。

白色疫病

特徴

◆２～３月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

◆発生が見込まれる時期に、予防散布として、**ランマンフロアブル**（7日前まで）、**ジマンダイセン水和剤**（3日前まで）を散布する。
◆発生を認めたら、**ザンプロDMフロアブル**（７日前まで）か**プロポーズ顆粒水和剤**（７日前まで）を散布する。

注意

【べと病・白色疫病】リドミルゴールドMZ（3回）
【べと病・白色疫病】ジマンダイセン水和剤（5回）
【べと病のみ】ペンコゼブ水和剤（5回）

上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。マンゼブの総使用回数は5回以内。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。